

[博士論文審査要旨]

申請者：寺嶋康二

論文題目 企業価値評価の観点から見た近年の負債オンバランス化の意味
—米国会計基準を題材として—

審査員 万代勝信

福川裕徳

佐々木隆志

会計の役割を投資意思決定に資する情報の提供と捉え、企業価値評価への役立ちの観点から、資産負債アプローチのもとで作成される貸借対照表の役割は何かを明らかにすることが本論文の目的である。そのために、退職給付会計における負債認識額の変化、資産除去債務の負債認識、レシーにおけるオペレーティング・リースのオンバランス化に焦点を当てて、それぞれの会計基準の変化の背後にある論理を明らかにするとともに、3つに共通する論理を明らかにし、それを通じて貸借対照表の役割を解明しようとする。

本論文の評価すべき点は次の通りである。

第一に、アメリカの会計基準設定主体が公表した多くの意見書、会計基準、草案、理由書などを丹念に読み込み、個々の会計基準の変化をそれぞれダイナミックに描き出している点である。それにより個々の会計基準の変化の要因を明らかにすることについては相当程度成功している。

第二に、本論文が対象としている領域に関する主要な文献について網羅的にサーベイがなされており、それらをうまく織り交ぜて論文を執筆している点である。特に、6章、7章では会計情報と企業価値評価の関係を幅広く検討しながら、仮説の導出を試みている。そこで示された仮説（企業価値評価における資本コストの推定への役立ち）は、この論文のユニークさであり、今後の研究の進展の方向性を伺わせるものである。

本論文の問題点は次の通りである。

著者は、最初に述べたように、3つの会計基準の変化の背後に共通してある論理を一般化し仮説として導出する形式をとっている。しかし、そこで行われている一般化の作業が必ずしも十分ではないため、貸借対照表全体としての役割の十分な解明には至っていない点である。そのため、投資家が資本コストの推定に具体的にどのように貸借対照表の情報を利用しているかについてはブラックボックスのまま残されているため、今後のさらなる考察が必要である。

以上の課題を残すものの、本論文は総合的に学位授与に足りる水準に十分到達していると認められる。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。